

授業科目名	器楽演習（パーカッション）(2100125)		
時間割名	器楽演習（パーカッション）(14106)		
時間割担当	大西雅博		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

打楽器においては、これまでに習得した技術の更なる向上を目指す。皮膜楽器については、打楽器奏者の必修条件であるダブルストローク（ロール奏法）の技術を高め、子供たちが習得する過程において困難が予測されるポイントを見つけ、その指導法について研究する。また小学校における器楽合奏を想定し、金管楽器・木管楽器の奏法を学び、デイリートレーニングの方法を学習する。さらにソロ・アンサンブルの楽曲も演奏し、その技術の向上を図る。そして管楽器・打楽器を用いた合奏において、それぞれの楽器の音色・バランス・ハーモニー・リズム等、総合的な音楽作りを研究し、音楽性を高めるとともに、指導力の向上を目指す。

学習の到達目標

打楽器については、ダブルストロークの完成度を高め、より現場での指導に役立つ技術を習得する。金管楽器・木管楽器については、構造を理解しそれぞれの楽器の簡単なリペアやバランス調整ができる技術を養う。また奏法については、基本的なテクニックを学び、デイリートレーニングの方法を指導できる知識を身につける。アンサンブルにおいては、管楽器独特のハーモニー感を体得し、純正律の響きを体感するとともに、そのシステムを学習する。合奏においては、それぞれが指揮者となり音楽をまとめていく中で、より高度な音楽性を養い、場面に応じて的確な指導が出来る幅広い知識と技術を習得する。

授業方法・形式

金管楽器・木管楽器・打楽器と幅広い分野の演習を行う。実際に楽器を使用することにより、楽器の構造・メンテナンス・簡単な管楽器リペアまで、多彩な学習を進める。個々の楽器の演奏技術を向上させ、アンサンブル力、合奏力を養うとともに、合奏の指揮を順に担当し、全体の指導も体験する。授業内では、個々の演奏技術を高めるだけの時間を確保するのは困難であるため、授業外での各自の繰り返し練習が技術を向上させ、より効果を高めるための唯一の手段である。

授業計画

- 第1回 打楽器奏法1：ダブルストロークの練習。16分音符と32分音符を使い、シングルストロークとのバランスをとる。
- 第2回 打楽器奏法2：ダブルストロークの練習。3連符と6連符を使い、シングルストロークとのバランスをとる。
- 第3回 金管楽器奏法1：楽器の構造・メンテナンス・マウスピースでの奏法・バジング・シラブル・倍音について学習する。
- 第4回 金管楽器奏法2：ロングトーン・運指・タンギングについて演習する。
- 第5回 金管楽器奏法3：デイリートレーニングのパターン学習をし、能率の上がる練習方法を研究する。
- 第6回 金管楽器奏法4：リップスラー・フラッター・ミュート奏法について演習する。
- 第7回 金管楽器奏法5：十二音階（タンギング・スラー・スタッカート）の演習をする。
- 第8回 木管楽器奏法1：楽器の構造・メンテナンス・リードについて学習する。
- 第9回 木管楽器奏法2：ロングトーン・運指・タンギングについて演習する。
- 第10回 木管楽器奏法3：デイリートレーニングのパターン学習をし、能率の上がる練習方法を研究する。
- 第11回 木管楽器奏法4：十二音階（タンギング・スラー・スタッカート）の演習をする。
- 第12回 アンサンブル1：金管または木管アンサンブルの楽曲に取り組む。
- 第13回 アンサンブル2：金管または木管アンサンブルの楽曲に取り組む。
- 第14回 合奏1：金管・木管・打楽器のセクションに分かれて、合奏を行う。順に指揮者となり全体の指導を行う。
- 第15回 合奏2：金管・木管・打楽器のセクションに分かれて、合奏を行う。順に指揮者となり全体の指導を行う。

成績評価の基準

平常点40%、学習意欲30%、演奏力（指導力）30%を合計する。

授業時間外の課題

授業においては、基本的な練習の方法を学習するので、繰り返しの練習は時間外に個人で行い、クオリティーを高める。アンサンブル曲の他に、個人がソロ曲を選択し、時間外に練習する。基本的に、授業内においてはソロの演習は行わない。

メッセージ

金管楽器・木管楽器・打楽器と、幅広いジャンルについての学習になるが、少し構造を知っている、少し音が鳴る、少し運指を知っている、というだけで現場では大変役立つことが多い。その“少し”を大切に学習して欲しい。

教材・教科書

使用しない

参考書

使用しない